

反論する朝日新聞の「死ぬまでSEXバッシング記事」こそセクハラである

地下倉庫の秘宝写真集

元イエローキャブ・野田社長が作った

## 三乳伝説

白石まるみ 54歳  
奇跡の全裸ヌード

撮り下ろし



高橋由美子



かとうれいこ 細川ふみえ 堀江しのぶ 雛形あきこ 山田まりや 佐藤江梨子  
プロ野球「契約更改」 「夫殺し」妻の事件簿  
スポーツ紙が絶対書かない 錄闇  
スーパープリーチング

ヌーハラ!? ふざけんな

平成28年11月28日(月)発行・発売(毎週月曜)

# 週刊ポスト

スケープ  
グラビア

大検証

## 大地震・津波緊急警戒・避難

あのアナウンサーの

「ビール税」は大衆搾取の歴史だ

生前退位

天皇はなぜ辞められないのか

2016 Dec.  
12.9  
特別定価  
430円

大反響! 間違ひだらけの「成人病」治療

「免許返納」でボケるリスク

飲んでいけない「高血圧治療薬」  
悲痛告白「私はこの降圧剤でインボになりました」

「月刊血圧」、読んでみたらスゴかつた!

③「週刊ポストよ、血圧下げるなら減塩だ」と医師たちの反論

聞いて

④NHKスペシャルで話題沸騰! 「遺伝子解析がん治療革命」

患者が知らない

⑤糖尿病予防なら歯医者に行け、つて本当!?

⑥夢の新薬・オフジーボ「突如、半額」? 薬の値段のカラクリ

⑦花粉症、認知症、偏頭痛ほか  
がん、心筋梗塞、痛風、「一日酔い」、「年を取ると楽になる病気」こんなにあつた

バブルで 日経平均2万円へ! 「爆騰メデー」

1月20日

投資のプロたちが  
いま考えていること

40代女性の19%に浮氣相手がいる「不倫だから渝しめる不倫プレイ」  
不倫の達人が教える「不倫の捷」またやった! 健康雑誌「壮快」の乳首ほぐし

いが多少値段に影響しますが、基本的には薬やメーカーのブランドイメージで価格が決まります」たとえば、うがい薬としての知名度が高い「イソジン」と、成分分量は同じだが商品名が広く知られていないうがい薬の実勢価格を比較すると200円以上、「イソジン」のほうが高い(120㎖130㎖の商品で比較)。



「——」までは加齢とともに増える病気や、その治療法や薬について紹介してきた。「煩わしい病気がこんなに

いが多少値段に影響しますが、基本的には薬やメーカーのブランドイメージで価格が決まります」たとえば、うがい薬としての知名度が高い「イソジン」と、成分分量は同じだが商品名が広く知られていないうがい薬の実勢価格を比較すると200円以上、「イソジン」のほうが高い(120㎖130㎖の商品で比較)。

# PART 7

## 「年を取ると楽になる病気」とこんなにあつた！

### 心筋梗塞、痛風、花粉症、二日酔い、インフルエンザ “老い”は悪いことばかりではなかつた――

同じ成分の胃腸薬でも、有名キャラクターがパッケージに描かれていたら割高になることがある。また、イオンなど大手スーパーでドラッグストアがプライベートブランドとして一般の市販薬より割安の薬を販売することも多い。

市販薬を選ぶときには名前やイメージだけでなく、効能や成分をチェックした方がいい。

一方、ED（勃起不全）治療薬のバイアグラや、AGA（男性型脱毛症）治療

薬のプロペシアは保険適用外の薬であるが、処方箋が必要なので医療機関を受診して購入することになる。販売価格は「医療機関によってバラバラ」と室井氏は指摘する。

「ED治療に強くブランド力のある医療機関が他の医院よりバイアグラの値段を高くすることや、儲けに興味のない医院はメーカーの小売価格に若干上乗せした価格で処方することもある」(室井氏)

それでも、時間とともに価格が安定するというのには

「需要と供給によりますが、保険適用外の薬は最初は高くても海外で販売されていく相場に影響され、次第に価格が落ち着く傾向があります」（油井氏）

現在の「主要薬品」の相場は以下の通り。

●バイアグラ  
1錠(50mg) 900円  
000円(ジェネリック含む)  
●プロペシア  
約1か月分で4000円  
7000円  
く薬の仕組みを学んで賢く薬を選ぶことが肝要だ。

プリン体が多いビールや刺身も我慢してきました。でも、70歳を過ぎたころから多少の暴飲暴食をしても、発作どころか尿酸値がほとんど上らなくなつて薬も飲まなくてよくなつた」(Aさん)  
痛風外来を設置する両国東口クリニック理事長の大山博司医師が解説する。  
「痛風の原因である高尿酸血症は7～8割が体质的な影響によるもので、生涯治療が必要であるという見方が一般的です。  
ただ、痛風患者は30～60歳の人が圧倒的に多く、70代に入ると少なくなります。この理由は尿酸産生量の減少にあります。20～40歳に増加した尿酸産生量が60歳を過ぎると減り始め、高尿酸血症の頻度が下がるところが報告されています。同時に、高齢になると免疫機能の低下もあって、痛風発作自体を起こしにくくなるのです」  
年を取れば身体中に痛みを抱え、使う病気も増えていくばかりだと思われがち

●花粉症・アレルギー性鼻炎  
72歳のBさんは、この春から晴れて花粉症から解放されたという。  
「目のかゆみや鼻水がひどく、マスクはもちろん、ゴーグル、帽子で完全防備しないと外出できないほど重症だったのですが、ここ3年ほどで徐々に軽くなりま

●がん

# 超高齢者はがんでも平穏死

が高くなるとその力が衰える

よく「高齢者はがんの進行が遅い」と耳にするが、実際にはどうなのだろう。

横浜悠愛クリニック理事長の志賀貞医師の話。

「進行が遅いのは間違いない。胃がんから肝臓に転移するとか、肺に転移するということが少なくなります。患者が若いと別の部位に飛び移る力が強いのに、年齢

がんに伴う疼痛も、高齢になると薄らいでいくとう。

「若い末期がん患者は痛みが強いため、ほぼ全員がモルヒネなどの医療用麻薬を要します。

しかし80～90代以上の超高齢になると、3～4割は医療用麻薬を使わなくて

●偏頭痛  
慢性的な偏頭痛に悩まされる人は少なくないが、高齢になると解放される場合が多いという。神経内科が専門の医師・米山公啓氏がそのメカニズムを解説する。「脳内を通る血管が拡張し、周囲を圧迫することによつて起きたのが偏頭痛です。

# 動脈硬化で

# 超高齢者はがんでも平穏死

関節リウマチなどの膠原病は女性に多い病気と思われがちだが、男性患者も2割を占める。在宅医療を実践する長尾クリニック院長・長尾和宏医師がいう。

「30～40代から患者人が多い膠原病も自己免疫疾患のひとつ。アレルギー性疾患と同じように加齢によって免疫機能が落ちると、強い症状が出なくなります」

嘔みつかれたような痛みが生じる関節リウマチだが、「戦い」にはいずれ終わりが来るようだ。

が軽くなる病気も存在する。  
その一部をご紹介しよう。

75歳のAさんは42歳のとき、痛風を発症。食事指導を受け、尿酸降下薬を飲み続けるなど、30年以上悩まされてきた。命に関わる病気ではないものの、発作が出来れば、足の親指の付け根がパンパンに腫れ、歩くど

# フルエン

十嵐氏)  
同じ成分の胃腸薬でも、  
有名キャラクターがパッケ  
ージに描かれていたら割高

薬のプロペシアは保険適用外の薬であるが、処方箋が必要なので医療機関を受診して購入することになる。

油井氏だ。

「需要と供給によりますが、保険適用外の薬は最初は高くても海外で販売されてい

